

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372801045		
法人名	社会福祉法人 綾友会		
事業所名	グループホーム桜の丘		
所在地	熊本県上益城郡甲佐町西寒野1151-2		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中心区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の状態の変化に速やかに対応して、協力医療機関と連携があり、安心して暮らして頂けるホームである。木造平屋作りのホームで、広いリビングがあり、ガラス戸越しに、テラスから庭へと続き開放感があり、花壇や菜園により季節を感じられるように努めている。季節により月2回のドライブを計画しホーム外での楽しみを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10周年を迎えたホームでは、入居者のフットワークを生かしたりズムある生活や、一人の歌が踊りにまで発展させる等入居者同士が触発しあうホームケアの良さを引き出している。入居者の出来ることを発見する喜びと、笑顔での日々を支援することをモットーに、行動指針である17項目の一つをその日の目標とする等職員のケア姿勢は高く、高齢化したなかにも介護支援に加え、裁縫や日記を書き続ける方等意思を反映させた日常に、“利用者が真ん中”としての関わりの成果が表出している。職員の健康管理の徹底や観察・気づきあるケアは、開設当初からの入居者も特段の変化の無く過ごされる様子に表れ、地域の中での充実した日々(地域行事・高校生との相互交流等)、併設福祉施設や医療機関との強固な関係、定着した運営推進会議及び家族会も機能し、家族による周辺の環境整備等地域や家族とともにあるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>年度初めのスタッフ会議にて全員で理念を確認している。また毎月の会議でも理念を引用して実践している。</p>	<p>理念“個の尊重・利用者が真ん中・地域と共に”を掲げ、入居者の出来る事を見出し、喜びを引き出す等入居者を真ん中にしたケア等に理念の実践であることが表出している。年度始めには理念を確認し、理念を想起させながら毎月会議を開催している。行動指針の17項目もまたケア指針として、1日1項目を目標として日々を振り返っている。開設当初からの入居でも大きな変化も無く過ごされたり、得意分野を發揮させた日常生活に、職員の笑顔での寄り添いのケアが生かされ、温かみのあるホームが形成されている。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地元の祭り、高校の体育祭・文化祭に出かけ交流をしている。食材の買出しも入居者と出かけ挨拶を交わしている。地元の方が犬の散歩途中に立ち寄られる事もある。また、みかん、渋柿、野菜などを頂いたり、入居者の方にも声を掛けて頂いている。</p>	<p>昔からのつきあいが継承された場所と人々とのつながりを絶やすことなく支援している。入居者用の席や食事の準備等もある高校の体育祭や文化祭、ホームの運動会への協力や奉仕作業(窓拭き)に訪問する高校ボランティア部、地域の祭り(大祇神社祭り等)等多岐に亘った交流に努めている。散歩途中の地元住民の立ち寄りや果物等の差入れ、買い物時の歓談等地域の中で確固たる基盤が作られ、地域と繋がりがながらの充実した生活ぶりである。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>学園大より実習生を受け入れ、地域密着型サービスとして小規模多機能とグループホームの違いを学んで頂いた。甲佐町認知症サポーター養成実習として2名受け入れた。甲佐町の福祉推進委員の施設見学時には、入居者への工夫などを伝えている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、区長、老人会長、家族会会長、行政、入居者代表と施設職員メンバーで、入居状況、行事報告を行っている。区長から祭りの案内を受け出かけている。また、地元の散歩コースを紹介して頂き出かけた。	定期的開催している運営推進会議は前回からの状況報告やビデオによる視覚を通じた報告により意見交換等が行われている。地域の情報リサーチは四季折々を楽しむ機会として生かされ、町の動向リサーチ及び行政へ提言する場等としてサービス向上に反映させている。	視覚を通じた行事等の報告は認知症ケア啓発の一環として生かされ、地域の情報を発信された区長には散歩時の写真が渡されている。更には委員からの地域情報や提案事項等の進捗状況の説明や結果を報告されることを検討いただき、更に意見等を収集する機会とされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の案内状、介護保険更新の申請時には、入居者と一緒に出かけホームの様子を伝えている。	運営推進会議案内や介護保険更申請に出かけ情報を発信し、認定調査時に情報交換を行っている。行政からの入居相談（一人ぐらし）や、認知症サポーター養成講座の実習及び福祉推進員の見学等を受け入れ、福祉課から運営推進会議にも毎回参加が得られており、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、出かけていかれる方には、見守りにて対応している。本体施設の身体拘束廃止委員会に参加して身体拘束『0』を維持出来るように努めている。	職員は施錠も含め身体拘束が入居者に与える弊害を正しく認識し、身体拘束・虐待についての研修や法人全体での身体拘束廃止委員会での事例検討に参加している。入居者個々の外出傾向の把握及び所在確認の徹底とともに、不穏になる前に散歩に誘う等職員の深いかわりが予測したケアとして生かされている。玄関の開錠や広々とした開口窓等自由な環境でのびのびとした日常を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、年度初めのスタッフ会議にて全員で確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度入居者の方で成年後見人制度を利用されている方がいらして改めて勉強をした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、家族連絡後ホームにて重要事項説明後契約を行っている。解約時には、退去後の支援について話を行い、家族の不安を解消出来るように努めている。改定の際は、家族会や面会時に説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催して意見を聞くように努めている。面会時には入居者の様子を伝えて、話しやすい雰囲気を作っている。	毎月担当職員による行事計画や状況を家族のならずキーパーソン以外にも発信している。毎年2回家族会を開催し、代表交代もこの会の中で決議し、記録用紙の変更を説明したり意見交換が行われている。入居者及び家族との関係性が構築し、ホーム周辺の環境整備を行ってくださる家族等協力的でもある。家族等からの苦情は法人全体で共有することとし、苦情解決制度(第三者委員の設置等)を説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	企画管理委員会(月1回)、運営推進会議(回/2ヶ月)を行い、意見や提案を聞いている。	管理者は日々ケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、その中で意見や提案を収集する等風通しの良い関係が作られている。会議にはあらかじめ改善する事案(疑問点や意見)を持ち寄り開催し、合議により決定している。施設長による個別面談時の意見等の聞き取りや直接の申し出等もでき、計画的な年休や希望休等により働きやすい環境としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度を導入している。各自が自らの力を発揮し、成長を実感できるように支援し、職員面接を年2回実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の職責に応じた研修会を実施(回/年)月次研修を6回開催している。スキルアップ研修として外部講師による研修に2名参加した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	老祉協、県社協や郡内の同業者の会議に参加するように努めている。上益城部会で一緒に世話役を引き受けた事業所から芋掘りの紹介があり、出掛けた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	5月に新規の入居者があり、本人の訴えを聞き安心して暮らせる様にその都度対応している。家族や、入居前の施設職員に情報提供を依頼して、安心して暮らせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の家族との面談、入居後家族・後見人に密に連絡をし、家族の要望などを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のケアプラン期間を概ね1ヶ月として、入居後の様子を伝え、次の計画の話をしている。ケアプランは家族の同意を得て作成している又、状態の経過を見ながらプランを変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般を入居者に声掛けし、一緒に行っている。ひとりひとりに出来るであろう事を見極めながら行動を共にする様にしている。干し柿作りでは皮の剥き方を教えて頂いた。花壇の花植えでは植え方を教えてもらった事もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	翌月の園外行事を、毎月知らせ、行事に参加される家族もおられる。運動会、敬老会、記念行事には、家族と一緒に食事をとれるよう計画実行している。また、家族の要望を聞きながら実施日の選定を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭りに参加して交流を図っている。また、買い物に行き声をかけられる入居者の笑顔もみられる。買い物帰りに姪の店へ立ち寄りたり、外出の帰りに家へ立ち寄り家族に面会してきた。入居前の施設から遊びに立ち寄せられ声を掛けて頂いたりする。	かかりつけ医・美容室等の継続や、毎日親戚のクリーニング店に出かける方、知人の訪問や地域の行事(あゆ祭り・大祇神社祭り等)見学、ショッピングセンター・役場等にも一緒に出かけている。お通夜や葬儀・法要参列や盆・正月の帰省、また遠方から帰省し居室に泊まれる家族等もあり、これまで築かれた関係性を継続して支援している。又、入居者同士及び職員との関係も構築している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	歌や踊りを始められる方に応援の掛け声を掛けられる方もいる。外出や散歩では、車椅子を押して頂いたり、話し相手になられたりされている。入院された時には、一緒にお見舞いに出かけるときもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本年度2名の退去者が、何れも長期入院の為、退去後も見舞いに出かけたり、相談を受けたりしている。退去後特養へ入所され、面会に出かけたり家族と話を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族会や入居契約時に事前指定書の説明を行い意向を伺っている。また日々の会話の中で思いや要望を聞き、把握に努めている。カンファレンス等で話し合い、様子も観察して暮らしやすい生活に努めている。	職員は日々入居者に寄り添い、良く会話を交わしながら、その時々のお思いを引き出している。また、入居者と一緒に出ることを見つけ、困った時には家族に相談することとしている。「外に出たい」との思いに一緒に出かけたり、買い物の日として週毎の買い物支援や「ここもいいけど、たまには帰りたい」との言葉を家族に代弁し、思いを実現させている。意思をなかなか出されない入居者には、表情での把握や笑顔もバロメーターとして推察し、ケアに反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居の方が2名おられ、前の施設からの情報を把握し、他職員に伝えている。本人や家族から話を聞き、情報を共有出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	総合記録シートを導入し、一日の過ごし方を24時間シートを使用して申し送りをしている。また毎月のカンファレンス時などに、全スタッフで話し合い把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで入居者の思いを検討している。家族の訪問時に意見を聞いたり、専門的な事は専門家に意見を聞いている。	日々の記録の中での評価や担当職員による3ヶ月毎のモニタリングにより計画可否を見極めている。介護認定更新に合わせ年に1回はアセスメントから見直した新たなプランを作成している。転倒リスク等にはPT等の専門的見地から意見を聞き取りし、「自分の出来る事はしたい」とする意向には得意分野を発揮させたプランや楽しみを組み入れる等入居者の思いを反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	キーワードを上げ、ケアプランに添った記録を行う。又、そのキーワードの新しいことを次回のケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ベッドが壊れた方にレンタルベッドを提案し、導入した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元住民の協力で祭りを楽しまれている。運動会では地元高校のボランティア部の参加もあり、盛り上げたり、奉仕活動として交流会を12月に開催している。訪問理容サービスを利用している。併設施設よりリフトカーを借用して全員で出かけている。必要に応じて、併設施設の訓練員や管理栄養士にアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的を受診している。又、月に一度精神科医の往診を受けている方もいる。変化があれば、家族に連絡し相談している。家族希望により眼科受診を行った。町外への受診時には情報提供書にて連携に努めている。	入居前からのかかりつけ医を継続し、町内であればホームで受診対応しており、家族対応での受診時は医療機関への情報提供や受診結果を共有している。又、認知症専門医の往診は入居者の日常観察の機会として生かされている。各自の薬の一覧や留意点を日々の記録ファイルに綴じこむことで共有化とし、健康チェックや観察により異常の早期発見に努めている。皮膚科や眼科・歯科等個々に応じた適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調の変化に気づき皆で相談し、必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の情報提供を行い、安心して入院できるよう支援している。負担を減らす為にも、早期退院できるよう連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてホームが出来る事を説明し、家族、親族の思いを「事前指定書」に記入して頂いている。	看取り指針のもと入居時の説明と共に、終末期の希望や急変時の対応についての事前指定書を交わし家族の意向を確認している。体調変化に応じ、主治医を交え話し合いの中で方針を決めていく事とし、医療中心になるとホームでの対応が難しいとして、医療機関での対応としている。法人特養等との連携を図った事例もあり、今後もホームのできる限りの支援に取り組んでいく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤帯、緊急時の対応について併設施設と連携がとれるようマニュアルを作成した。感染症対策として嘔吐があった場合の対応について勉強会を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練、月1度の部署内の防災訓練を行って防災意識を高めている。年末には地元消防団の夜警見回りがあり、毎週日曜日には消防見回りがあ	法人特養と合同の火災避難訓練を年2回実施している。また、毎月外出の前に避難通路等を確認し、いざという時の意識付けとしている。夜勤者によるガスの元栓の確認や、夏祭りに地元消防団も参加され、ホーム内の状況を確認されている。法人として町の福祉避難所の指定を受け、ホームでも水や食料等の備蓄に取り組んでいる。	法人の防災委員会に属し協力体制が図られている。今後は自然災害に対するシュミレーションや、ホーム独自の訓練を検討され、有事に備えられる事が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	礼節と尊厳を持って対応するよう心がけている。特に入浴時、排泄時には羞恥心に充分配慮している。	入居者の生活歴を把握し、呼ばれ慣れた呼称での声かけや、ノックでの入室等一人ひとりの誇りを損ねない対応に努め、言葉遣いや声のトーン等に注意しながら運営理念の“個の尊重”“利用者が真ん中”を実践している。職員は膝を折り入居者目線で話しかけ、個人情報保護や守秘義務の遵守に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人の意向や思いをくみ取るよう努めている。食べ物や飲み物の嗜好に合わせ選択してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の思いや本人の意向を尊重し、確認しながら時々場面づくりを行っている。散歩の希望があれば出掛けている。夜間入浴も希望があれば行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や外出時は職員が共に洋服選びを行い、おしゃれを楽しんでいる。毎朝、化粧されている方には、足りない部分を手伝ったり、就寝前にはクレンジングを施している。敬老会は、化粧を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、片付けは職員と共に行っている。又、菜園の収穫で季節の野菜を美味しく食べている。一人ひとりの能力に合わせて手伝いを依頼し、同じ人ばかりに片よらない様配慮している。	買い物の日に食べたい物を尋ねる等入居者の好みやバランスの取れた献立を作成し、畑で育てた野菜や頂きもの等も利用されている。入居者も交代で野菜を切ったり、注ぎ分け・茶碗洗い等に関わりながら、職員と一緒に会話しながらゆっくりと和やかな食卓を囲んでいる。梅干しや干し柿・干し大根作り等一緒に作り、本人に合わせた誕生日メニュー・外食等も取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい形態での提供や好まれるものの提供、補食、水分摂取に努め、体重増減にも充分注意している。体重に対しての目標、水分摂取量をシートに記入し、摂取量を送り、確実にとれるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。出来るだけ自分で磨いて頂き、不足部分は支援している。義歯は週1回超音波洗浄器を使用し、2日に1回洗浄剤を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を支援している。トイレのサインを見つけ快適に排泄して頂く為の支援を行っている。	排泄チェックでパターンを把握し、個々の状況に合わせてたり、そわそわ等様子を察した声かけや誘導によりトイレでの排泄を支援している。又、下着や昼夜での排泄用品を検討し失敗の減少や自信に繋げ、夜間もトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝から牛乳を提供したり水分を多く摂取してもらっている。便秘の方は水分摂取量と排尿の量を管理して排便を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望や体調に合わせて入浴を勧めている。拒否の方には、時間をずらしたり、職員を交代して誘導している。夜間希望される方には対応している。	入居者の体調に合わせ、個々の好みの湯温や希望によっては夜間も対応している。入浴拒否時にも無理強いをせず、誘い方の工夫を職員間で共有し声かけしている。夏場の発汗状況により回数を増やしたり、シャワーにより清潔保持に努めている。また、ゆず・しょうぶ湯で季節を味わい、近くの足湯への外出等支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れている様子だったり、夜間あまり休まれない時には、休息してもらうように声掛けしている。夜間良眠していただく為、日光浴や日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服用されている薬の勉強会を行い、副作用等について理解するように努めている。症状の変化があれば、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が昔していた事や興味のあるものを提供し、張りのある生活が出来るように支援している。気分転換に庭でお茶する時もある。手伝いの後には礼を述べている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関は施錠はせず、出かけられる方は見守りを行い、様子を見て声掛けをして気分転換を図るように努めている。月2回の外出行事を計画しており、家族には請求書送付時に連絡行い、外出に参加される方もおられる。	入居者の声に応え、ホーム周辺や整備された近くの河川敷を散歩したり、テラスでの外気浴や職員が法人に出向く際は入居者も同行している。毎月の外出行事には家族にも参加を募り全員で遠方(海・菊池等)まで外出したり、初詣や花見等季節毎に計画して出かけている。又、個別の買い物や家族との外出・帰省等多くの外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーや食材の買出し時に職員とショッピングを楽しんでいる。財布を渡しレジの支払いをお願いする時もある。家族の協力を得て、少額を手持ちされている方は、同行時に買い物をされたり、購入を依頼される時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話がかかると話をして頂き、家族へ電話の希望があれば掛けている。手紙が届くと本人に知らせ、家族へ連絡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りの壁絵を毎月かけて季節感を出している。テラスとの間は1枚ガラスで外の景色が楽しめ開放感を感じられる。浴室前には、一休みできる高床式の畳スペースがある。	広々と開放感のあるホーム内には、ゆっくりとした時間の持てる食事の場や、テレビを中心とした寛ぎの場、畳スペース等入居者が思い思いの時間が持てるような造りとなっている。大きなガラス戸からは季節の移ろいが眺められ、入居者作品の貼り絵やテーブルに置かれた花々にも季節感が溢れている。入居者目線に掲示した時計やホーム便りの他、温湿度管理を徹底し、入居者も一緒にモップがけをする等快適な場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや玄関脇のベンチ、園庭など好みの場所でそれぞれの時間を過ごされている。テラスのベンチで外気浴を楽しまれることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や鏡台、仏壇を持ち込まれているところもある。思い出の写真、好みの花やぬいぐるみ等を飾られている。	居室には洗面台や収納等が備えられ、タンスや椅子・テレビ等本人の使い慣れた物が持ち込まれている。仏壇に手を合わせる方や日記を付けたり、鏡台に向い化粧をする方や畳に布団敷き等自宅での線상을思わせる環境である。家族写真や手紙・自分の作品・セピア色の結婚写真等を飾り、遠方の家族も帰省時に一緒に泊まれる事もある広い居室である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台は居室と共有スペースにある。畳間やソファ、長テーブルの椅子、食堂の椅子など、出来るだけ自分で立ったり、座ったり出来るような備品配置となっている。また、分かり易いようトイレの表示の位置を工夫したり、暖簾を掛けて目印にしている。		